

將まさに東遊とうゆうせんとして壁へきに題だいす（釈月性しゃくげつしょう）

男兒立志出鄉關 學若無成不復還
埋骨何期墳墓地 人間到處有青山

男兒だんじ 志こころざしを 立たてて 鄉關きやうかんを 出いず

解説 男子がひとたび決意して故郷を出たからには、志の成就しないかぎりには断じて帰るべきではないとの意を詠じたもの。

学がく 若もし 成なる 無なくんば 復また 還かえらず

語釈 ※東遊題壁 〓故郷から東方の大阪に遊学するにあたって、その決意を示した詩。 ※郷関 郷里。 ※不復還 絶対にもどつてくることはない。 ※青山 墓。青山といえは中国では墓の別名。樹々の茂った山から出た名称。

骨ほねを 埋うずむる 何なんぞ 期きせん 墳墓ふんぼの 地ち

通釈 ひとたび男子が志を立てて郷里を出た以上は、学問が成就

人間じんかん 到いたる 処ところ 青山せいざん 有あり

するまでは再び故郷にもどらない決心である。骨を埋めるのに故郷の墓所を望む事もない。世間どこへ行つても青々とした山の墓地があるのである。